

“財務マネジメント・サーベイ”アンケートご協力をお願い

国際財務報告基準(IFRSs)への対応

調査実施: 日本CFO協会

CFO(経理財務担当役員)各位

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より弊会の諸活動に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本CFO協会ではCFOの方々に関心の高いテーマについて日本企業の動向を実態調査していく「財務マネジメント・サーベイ」を実施しており、今回は「国際財務報告基準(IFRSs)への対応」をテーマに実施いたします。

グローバルに事業展開する企業のみならず、資本市場というグローバルネットワークに参加するすべての企業にとってIFRSsはいま最も関心の高いテーマであり、導入の方向性や導入時期、その方法など、企業の取るべき対応については模索の段階という状況にあらうかと存じます。今回の財務マネジメント・サーベイでは、皆様の企業の今後の戦略にご活用いただくことを狙いと致しまして、日本企業のIFRSsへの対応状況についての調査を実施する次第です。

ご回答を頂きました企業様には、全体の集計結果および分析記事を掲載した弊会の季刊誌を無料にて進呈いたしますので、是非ご活用ください。

ご多忙中とは存じますが、別紙調査票にご回答頂き、FAXにてご返信頂きますようお願い申し上げます。

謹白

記

調査ご対象者 : 上場企業のCFO(経理財務担当役員)様

ご回答締切日 : 5月14日(木)

ご照会先 : 日本CFO協会事務局 <http://www.cfo.jp>
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル2F
TEL 03-3556-2334 FAX 03-3556-2320 e-mail info@cfo.jp

以上

<ご回答データの取り扱いについて>

貴社からご回答頂きました内容は日本CFO協会が責任をもって管理し、貴社の同意なく第三者への提供は致しません。調査結果の分析を専門家へ依頼する場合にも、全体の集計結果のみを提供し、企業別の回答データを提供することはありません。

2009年4月

日本CFO協会専務理事 谷口 宏

<ご回答者特典！>

1. 調査結果と解説を掲載した「CFOFORUM」6月号を1部無料進呈
2. FASS ベーシック検定「財務会計」公式テキスト1冊無料進呈
国際財務報告基準(IFRSs)に準拠した財務会計の学習に最適！

<監修>

金児 昭 経済・金融・経営評論家、信越化学工業顧問

大向 健治 リソース・グローバル・プロフェッショナル 公認会計士、米国NY州公認会計士

熊本 浩明 公認会計士

手塚 正彦 監査法人トーマツ 公認会計士



国際財務報告基準(IFRSs)への対応

<ご回答者特典！>

1. 調査結果と解説を掲載した「CFOFORUM」6月号を1部無料進呈
2. FASS ベーシック検定「財務会計」公式テキスト1冊無料進呈
国際財務報告基準(IFRSs)に準拠した財務会計の学習に最適！

<監修>

金児 昭 経済・金融・経営評論家、信越化学工業顧問

大向 健治 リソース・グローバル・プロフェッショナル、公認会計士、米国ニューヨーク州公認会計士

熊本 浩明 公認会計士

手塚 正彦 監査法人トーマツ 公認会計士



<ご回答データの取り扱いについて>

ご回答頂きました個社別の回答データは“日本CFO協会”が責任をもって管理し、回答者の同意なく第三者への提供は致しません。調査結果の分析を専門家へ依頼する場合には全体の集計結果のみを提供し、個社別の回答データを提供することはございません。

以下の質問事項について、該当個所にチェックしてFAXをお願いいたします。

ご回答期限：5/14（木）

■ 貴社のプロフィールについて

- | | | | | |
|---------|---|---|---|-------------------------------|
| 業種 | <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 小売業 | | |
| | <input type="checkbox"/> 金融業 | <input type="checkbox"/> 資源・エネルギー | | |
| | <input type="checkbox"/> 通信・メディア | <input type="checkbox"/> ライフサイエンス | | |
| | <input type="checkbox"/> 商社・卸売 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| グループ年商 | <input type="checkbox"/> 100億円未満 | <input type="checkbox"/> 100億円以上500億円未満 | | |
| | <input type="checkbox"/> 500億円以上1,000億円未満 | <input type="checkbox"/> 1,000億円以上3,000億円未満 | | |
| | <input type="checkbox"/> 3,000億円以上1兆円未満 | <input type="checkbox"/> 1兆円以上 | | |
| 海外売上高比率 | <input type="checkbox"/> 10%未満 | <input type="checkbox"/> 10%以上30%未満 | <input type="checkbox"/> 30%以上50%未満 | <input type="checkbox"/> 50%超 |
| 会計基準 | <input type="checkbox"/> 日本基準適用会社 | <input type="checkbox"/> 米国基準適用会社 | <input type="checkbox"/> 任意でのIFRSその他の基準適用会社 | |



■ IFRSに対する取り組みについて

Q1 以下の事項についてご回答ください。

(1) 原則主義

詳細な会計処理の規則を設けない原則主義について

- 取引についての会計処理に関して、取引の実態に応じた経営者による裁量の幅が広がる。
- 取引実態に応じた最適な会計処理を採用することとなるのでかえって、経営者による裁量の幅は狭まる。
- その他()

(2) 資産・負債アプローチ

企業の損益を、資産及び負債を公正価値によって評価した後の資産と負債の差額である純資産の増減によって測定する資産・負債アプローチについて

- 株主にとって利益とは純資産の増加なのであるから、資産・負債アプローチは株主に対して透明性が高いアプローチである。
- 公正価値評価による資産・負債アプローチは、未実現の損益を利益計算に取り込むこととなり、損益計算の観点からは望ましくない。
- その他()

(3) 公正価値アプローチ

資産・負債を可能な限り公正価値によって評価する公正価値アプローチについて

- 企業価値をより明確に示すものであり望ましい。
- 公正価値によって評価する対象には、一定の制限を設けるべきである。
- 公正価値アプローチは取得原価アプローチより安定性・信頼性において劣る。
- その他()

(4) IFRS 全般

- 投資家をはじめとする財務諸表利用者にとって、従来の我が国の基準よりも優れた基準である。
- 従来の我が国の基準の方が、財務諸表利用者にとって優れた基準である。
- どちらとも言えない。
- その他()

Q2 IFRS適用によるベネフィットとしては何が思い当たりますか？(複数回答可)

- 決算手続を簡略化できること
- 決算手続を標準化・統一化できること
- 決算に要する費用を削減できること
- 経営全般の改革のためのきっかけとできること
- 海外上場、海外での資金調達などにおいて有利に働くこと
- 同業他社より早期適用することにより IR 上優位に立てること
- グループ経営管理のレベル向上が図れること
- IFRS の原則主義の適用により自社に適した会計方針が採用できること
- その他()

Q3 IFRS適用に向けての課題(チャレンジ)としては何が思い当たりますか？(複数回答可)

- 人材のスキル(質-会計知識)不足
- 人材のスキル(質-英語力)不足
- 対応できる人材(量)不足
- 情報システム改修の不安
- IFRS 対応プロジェクトにかかる費用負担
- (原則主義の適用による)IFRS 解釈上の混乱
- 将来の IFRS の変更
- その他()

Q4 自社グループとして IFRS の早期適用を望みますか？

- はい
- いいえ

Q5 Q4 ではいと答えた場合のみ回答してください。

・早期適用するならばいつを想定しますか？

- 2009 年度
- 2010 年度
- 2011 年度
- 2012 年度
- 2013 年度
- 2014 年度
- 2015 年度以降
- 未定

・早期適用する際のベネフィットと課題(チャレンジ)には何が思い当たりますか？

- ベネフィット
()
- 課題(チャレンジ)
()

■プロジェクトの影響範囲について

Q6 IFRSプロジェクトにおいて、適用までに多くの対応を要する業務には何が思い当たりますか？(複数回答可)

- 財務会計上の対応(影響分析・マニュアル整備等)
- 管理会計の変更(業績評価指標の変更等)
- 税務対応
- 内部統制の見直し
- 業務プロセスの見直し
- 会計・連結システムの改修
- 基幹システムの改修
- 人材育成や教育
- 各種の契約内容の確認と見直し
- その他()

■プロジェクトの立ち上げ

Q7 貴社のプロジェクトの進行状況はいかがでしょう？

- まったく対応を行っていない。
計画やロードマップ策定等の組織的対応を行う前段階として、小集団での情報収集を行っている。
IFRSに基づく財務諸表作成に必要な計画・ロードマップを策定するための全社対応を開始した。
IFRSに基づく財務諸表作成に必要な計画・ロードマップを策定し、これに従ってIFRS財務諸表の作成に必要な体制整備・インフラ整備に着手した。
既にIFRSに基づく連結財務諸表を作成している。

Q8 外部のアドバイザーは起用しましたか？

- 検討をしていない。 検討をしているが、まだ選定していない。
監査人をアドバイザーとして選定した。 監査人と異なる会計事務所をアドバイザーとして選定した。
会計事務所以外のアドバイザーを選定した。

Q9 計画策定時には、自社要員としてどの程度のプロジェクト規模になると考えられますか？

<専任>

- 2名以下 5名以下 10名以下 20名以下 20名超

<兼任者含むプロジェクトメンバー>

- 2名以下 5名以下 10名以下 20名以下 50名以下 50名超

Q10 IFRS導入において、ピーク時には自社要員としてどの程度のプロジェクト規模になると考えられますか？

<専任>

- 5名以下 10名以下 20名以下 50名以下 50名超

<兼任者含むプロジェクトメンバー>

- 5名以下 10名以下 20名以下 50名以下 100名以下 100名超

■財務数値へのインパクト

Q11 貴社の財務数値へ大きなインパクトを与えることが予想される基準には何が思い当たりますか？(複数回答可)

- 収益認識 棚卸資産
有形固定資産 開発費の資産計上を含む無形固定資産
減損 リース
金融商品 退職給付(年金)
企業結合 連結範囲
財務諸表の表示 その他()

Q12 IFRSを適用することによる貴社の財務状況への影響についてどのように考えていますか。

(1) 初度適用時の期首剰余金への影響

- 日本基準によった時より剰余金が減少する 日本基準によった時より剰余金が増加する
どちらとも言えない

(2) IFRS適用後の当初の包括利益計算書における当期純利益について

- 日本基準によった時よりも当期純利益が増加する 日本基準によった時よりも当期純利益が減少する
どちらとも言えない

本サーベイの結果と解説は次号「CFO FORUM(6/10発行)」にて特集致しますので、次号「CFO FORUM」をご希望の方は必ずご連絡先(お名前・ご住所・お電話番号等)をご記入ください(無記名の場合にはお届けすることができませんのでご了承ください)。

| | |
|-----------------------|-------------|
| (証券コード:) | |
| ご氏名: _____ 様 | ご勤務先: _____ |
| 部署名: _____ | お役職: _____ |
| ご勤務先所在地: 〒 _____ | |
| TEL: _____ FAX: _____ | |
| Email: _____ @ _____ | |